

2024年5月12日主日礼拝

『JESUSと俺の生きる道』

ミカ6:8

聖書箇所

- 8 主はあなたに告げられた。
人よ、何が良いことなのか、
主があなたに何を求めておられるのかを。
それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、
へりくだって、
あなたの神とともに歩むことではないか。

導入

みなさん、おはようございます。本日はキャンプ報告礼拝となっております。5月3日から5日に松原湖バイブルキャンプ場で行われた青年キャンプでのめぐみを分かち合いたいと願います。今年は49人の参加者がいました。彼らの様子をまとめたムービーを準備しました。まずはそちらをご覧ください。**[動画]** (5分3秒)

本文1: キャンプ報告

いかがでしたでしょうか。とても楽しんでいる青年たちの姿を見ることができたのではないかと思います。実際とても楽しい3日間でした。しかし、もちろん楽しいだけではありません。自然に触れ、仲間に触れ、みことばに触れる3日間だったのです。そのキャンプの様子を、松原湖バイブルキャンプ場について、分かち合いについて、そして、いただいたみことばについてという3点で報告させていただきます。

まずは、松原湖バイブルキャンプ場について、です。このキャンプ場を訪れたという方も多いのではないのでしょうか。松原湖バイブルキャンプ場は神様が造られ支配される自然環境の中で、みことばの養いとキリストをかしらとした共同生活を通し、人々の救いと育成に努め、献身者を生み出すことにより、世界に広がる教会に仕え、神の栄光を現すということを使命としているキャンプ場です。今年で73年目になるこのキャンプ場は、成立当初からの使命を今もまっとうするために努力を続けているのです。夏や冬には多くの年齢層に向けたキャンプも開催されています。私たちの教会ではTEENSの子どもたちがこのキャンプに参加し、洗礼の決心をするということも多くありました。本当にすばらしいキャンプ場です。今回の青年キャンプでは日常を離れ、豊かな自然の中で静まり、みことばと仲間集中できる環境を与えてくれました。自然環境もさることながら、スタッフの方々や、ボランティアの方々の献身的な働きもあり、参加者49人みな、素晴らしい時間を過ごすことができたのです。

そんな素晴らしいキャンプ場が今危機的状況にあるということを、みなさんご存知でしょうか。コロナ禍の3年間、集うことができなかつたからです。その影響が未だ残っていて、松原湖バイブルキャンプ場は、今、経営難やスタッフ不足の中にあります。松原湖バイブルキャンプ場は日本のクリスチャンの宝ともいうことのできるキャンプ場であると私は思っています。ぜひ、みなさんのお祈りに覚えていただければ幸いです。

次に分かち合いについて報告します。私が青年主事として日頃から青年たちに強調していることの一つに分かち合いがあります。信仰の仲間との分かち合いは私たちの信仰生活を豊かにするからです。いただいたみことばやめぐみを共有すること。自分の悩みを仲間打ち明け、祈りあうこと。同じ目標を持った仲間が祈りで支え合い、切磋琢磨すること。そのどれもが私たちの信仰を豊かにするのです。青年たちの教会生活や学び会において、私はいつもこのことを大切にしたいと願っています。ですが、日曜日や土曜日に会うだけでは、なかなかそのような時間を持つことは難しいという現状があります。仲間と分かち合いたいと願っていても、時間や環境が許されないことが多くあるのです。

青年キャンプの醍醐味の一つは、この分かち合いを心ゆくまですることができる、ということにあるでしょう。日常を離れた自然の中で、いつもはゆっくり話すことのできない仲間と

時間を気にすることなく分かち合うことのできる時間を持つことができるのです。上手に話す必要はありません。何か良いことを話す必要もありません。無理にはなすことを絞り出すこともなく、聞き役に徹しても構いません。自分なりのスタイルで仲間との時間を楽しむことができるのです。

キャンプのスケジュールを決める中で、分かち合いの時間をどう確保するのかということが、キャンプ準備委員の間で話し合われました。結果集会后、可能な限りの時間を分かち合いに割くことになったのです。参加者49人のうち、青年は45人だったのですが、8つのグループに分かれ、それぞれの場所で分かち合う時間を持ちました。時には室内で、時には豊かな自然の中に出て、受けためぐみを分かち合ったのです。分かち合いの中で新たな気づきがありました。親しい仲間のお話をじっくり聞くことができました。自分の思いを話すこともありました。よく知らなかった青年と友人になることができました。受けためぐみをさらに豊かに味わう時間となったのです。さらに、今回の分かち合いは時間とグループを超えたものとなります。多くの青年が毎晩深夜1時、2時まで、交わりを持ち、楽しみ、話し合ったのです。なんと豊かな時間でしょうか。寝る時間も惜しんでの分かち合いがありました。信仰の仲間の絆が確かに深くなった、そんなキャンプであったと思います。

最後にいただいたみことばについて報告いたします。今回のキャンプのテーマJESUSと俺の生きる道です。このテーマをもとに2泊3日の日程で4回の集会の時間がありました。青年キャンプでは毎年講師の方をお招きして集会で話をさせていただきます。いつもとは違う先生のお話を聞くことのできる貴重な機会となるのです。今回の講師は私たちの教会の顧問牧師である清野先生でした。清野先生に講師を依頼したところ、参加する青年に向けてこのような言葉がありました。

“私たちは神様によって、主体的な存在として創造されました。それは自分で思索し、自分で選択し、自分が生きていくためです。私のプレゼンテーションは説教ではなく、発題です。現代に生きる「俺」にとって重大課題について語ります。みんなの思索の材料にしてほしい。それは聖書を土台にしているキリスト教世界観の発題です。みんなにとって、「学習する」のではなく「思索する」機会となるように祈っています。”

清野先生はクリスチャンとして生きる青年たちに「思索する」時間を準備して下さったのです。4回の集会で語られたことは信仰とカルト、多様で豊かな性、歴史的な文脈、現代をクリスチャンとして生きていく、ということでした。集会としては4回でしたが、語られた内容は、倍の8回分はゆうにあると思います。それほど多くの内容を受けた青年たちは、真摯に受け止め、語り合い、分かち合いました。自分がクリスチャンであるということ、イエス・キリストを信じる者として生きていくことがどういうことを考え、これからどう生きていくのかを思索する時間を持ったのです。“こう信じたから、こう生きるんだ。情報を受けて、自分が生きていく物語を作っていかななくてはならない。”最初の集会で清野先生が語って下さったこの言葉を、青年たちが考える時間となったのです。清野先生の証があり、分科会では宮崎長老夫妻の証を聞く時間もありました。信仰の先輩の証は、青年たちに大きな刺激となったようです。

私個人として今回のキャンプで一番嬉しかったのは、青年キャンプどうだい？楽しんでる？という私の質問に、多くの青年が、今までなんとなく思っていたことをはっきりと考える機会になりました、と答えてくれたことです。清野先生の発題、宮本長老夫妻の証、仲間との分かち合い、日常から離れた豊かな自然。そのすべてによって青年たちは神様に集中する時間を持つことができたのです。クリスチャンとしての生き方を、主とともに生きることを真摯に学び、語り合い、深く考える、そのような青年キャンプになったと思います。青年キャンプのために尽力して下さったこと、青年たちのために祈って下さっていることに心から感謝いたします。

本文2: JESUS と俺の生きる道

今回の青年キャンプのテーマは JESUS と俺の生きる道です。クリスチャンとして生きていくことはどんなことでしょうか。神様を信じて生きていくことは何を意味しているのでしょうか。私たち誰もが一度は考えることではないかと思うのです。みなさんはこの問いになんと答えるでしょうか。JESUS と俺の生きる道。このテーマを持って選んだテーマ聖句は **ミカ 6:8** です。

8 主はあなたに告げられた。
人よ、何が良いことなのか、
主があなたに何を求めておられるのかを。
それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、
へりくだって、
あなたの神とともに歩むことではないか。

主があなたに何を求めておられるのか。それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。この簡潔な問答は、私たちの心に染みるようです。

主が告げられたこのみことばは、イスラエルの民に与えられました。この時の彼らはアッシリヤ軍の侵略によって危機的状況に陥っていました。その中で彼らは神様に選ばれた民であるにも関わらず、政治的、倫理的、宗教的に墮落していたのです。彼らはもはや、神様が何を求めておられるのかを真剣に尋ねることを忘れていました。公正、誠実、へりくだりは古い美德として葬り去られていました。神様とともに歩むことが何なのか、自分たちに突きつけられた現実を前にして、考えることを諦めてしまっていたのです。

公正を行うとは神様の判断に従って歩むことを意味します。誠実さとは、人が神様と人に行うべきことでしょう。へりくだることは自分の欠けを見つめ、神様を見つめる時に初めてできることです。私たちが悩むのはなぜでしょう。神様が私に何を求めているかわからないからではないでしょうか。もしくは、私の思いと神様の思いがあまりにも違うからではないでしょうか。私たちが神様を忘れるのはいつでしょう。神様と人への愛を忘れた時ではないですか。私たちが高ぶるのは、自分こそが正しいとの思いから、神様のことを考えもしないからです。主を信じていると言いながら、いつも間にか神様を忘れてる自分を、人への愛を忘れてる自分を発見するのです。

ワカチナというオアシスの町があることをご存知でしょうか？ワカチナの町はただのオアシ

スではなく、ペルーの観光名所となっています。夜には綺麗にイトアップされたりします。砂漠というのは、人が住むには適していない場所です。水もなければ、植物もない。食べ物さえもない。あるのは見渡す限りの砂だけ。とても生きていける環境ではないのです。しかし、砂漠のオアシスならば、このワカチナの町のように、砂漠であってもオアシスであれば人は生きていくことができます。ただ生きるのではなく、多くの人が集まることにもなります。遠くに住んでいてもわざわざ砂漠の中にある町に赴くことになるのです。どんな状況であっても生きるために必要なものがあれば、人は人生を歩いていくことができるのです。逆に水から離れ、水を忘れてしまっは、生きていくことはできないでしょう。

何が良いことなのか。そう問い続けることは砂漠の中にあっても、オアシスに住むようなことではないかと思うのです。神様は、神様に無関心な者に語りかけます。神様を忘れている者に語りかけられます。わたしの声を聞きなさい。そして、わたしに求め続けなさい、と。それこそが、イエス・キリストを救い主として告白し、神様の子となった、私たちの進む道なのです。

結論

JESUSと俺の生きる道は主が私たちに問いかけ続けてくださる道です。そして、私たちが主に問いかけ続ける道です。私たちはこの道を進んでいこうではありませんか。私たちの人生の歩みがJESUSと俺の生きる道となることを切に願います。